

《課題名》

法医学剖検例における前立腺潜在癌発生頻度及び経年変化の調査

《研究対象者》

西暦 2014 年 9 月 30 日より 2029 年 3 月 31 日までに滋賀医科大学社会医学講座法医学部門において法医解剖された男性のご遺体が対象となります。なお、観察に適さない状態のご遺体、及び、ご遺族が「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」に同意されなかった事例、下記（ 7 ）において試料の情報・利用の停止を求められた事例につきましては、対象から外させていただきます。

また、西暦 2000 年 4 月 1 日より 2013 年 3 月 31 日まで獨協医科大学で法医解剖された男性の方についても、記述記録をもとに情報を利用します。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している情報及び試料を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方のご遺族におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（ 1 ）研究の概要について

研究課題名：法医学剖検例における前立腺潜在癌発生頻度及び経年変化の調査

研究期間： 2014 年 9 月 30 日～2029 年 3 月 31 日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

（ 2 ）研究の意義、目的について

近年、我が国における食生活の欧米化などにしだいで、前立腺癌が増加しており、前立腺潜在癌の発生頻度が注目されています。現在、主として、病理解剖症例を対象として前立腺癌がどの程度存在しているかを確認し、年齢及び年代別に比較されています。しかし病理解剖は担癌患者や高齢者が多く、これらを対象にした調査では、真の潜在癌発生率を反映しないという問題があります。主に事故、事件等で死亡した法医解剖症例で調査を行うことで、真の潜在癌発生率に近いデータを得ることができると思います。本結果によって、若年者から高齢者まで広く潜在癌の発生頻度やその好発部位、進行度が明らかになれば、前立腺癌の管理や治療に役立つと考えられ、社会への貢献にもつながると考えます。

（ 3 ）研究の方法について

滋賀医科大学で解剖された方については、「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」の研究にご提供いただいた試料・情報を用い、前立腺癌の有無、有の場合はその程度や部位を観察します。

西暦 2000 年 4 月 1 日より 2013 年 3 月 31 日まで獨協医科大学で法医解剖された方については、記

録文書をもとに上記の情報を確認します。

(4) 個人情報の取扱いについて

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方のご遺族は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人（ご遺族）の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（8）にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2200